

第1回香川県ダム検証に係る検討委員会 議事要旨

日時：平成22年12月13日（月）10:00～12:00

場所：香川県庁本館12階 第1・2会議室

【出席者】

白木委員長、石塚委員、井原委員、角道委員、工藤委員、森委員、好井委員、吉原高松市都市整備部次長（高松市長代理）、多田高松市水道局次長（高松市水道事業管理者代理）、藤井東かがわ市長、綾坂出市長、小橋丸亀市建設課長（丸亀市長代理）、岡田綾川町建設課課長補佐（綾川町長代理）、船橋香川県土木部次長（香川県土木部長代理）、小野香川県高松土木事務所長、竹内香川県長尾土木事務所長、松岡香川県中讃土木事務所長

【会議の概要】

- 白木委員が委員長に選出された。
- 委員会は環境に係る貴重種に関する部分を除き原則公開で審議を行う。
- 事務局からダム検証に係る検討の経緯及び進め方について説明を行った。
- 事務局から検証対象ダム（椋川ダム、五名ダム再開発、綾川ダム群）の概要について説明を行った。
- 議事要旨、会議配布資料は委員長に確認のうえ、県のホームページで公開する。

【主な意見】

学識経験者

- 「治水」「利水（水道用水）」だけでなく、「流水の正常な機能の維持」についても、同レベルでの検討が必要ではないか。
- ダムができることによる、生物の多様性の変化を見る視点も必要である。
- トップダウン的に国から検討手法が決められているが、全国共通の考え方だけではなく、地域特性を考慮し、ボトムアップ的に議論すべきではないか。
- 地域の現状を把握して、評価軸の重み付けを進めていくことが重要である。
- 地元の意見を踏まえる必要がある。

関係地方公共団体

< 栴川ダム >

- 高松市：今後の検証の中で、適切な治水計画が図られるよう検討していただきたい。
- 高松市水道事業管理者：早明浦ダムの安全度が非常に低くなっている中で、渇水時に水が不足している。利水の観点から水需給計画を評価したものを示し、本委員会で水源確保策を議論していただきたい。

< 五名ダム再開発 >

- 東かがわ市：現五名ダムは容量も小さく、平成 16 年の台風時には、ダムの能力をオーバーし、下流に大きな被害が発生した。この地区は非常に洪水被害を受けやすい地域であり、また利水面も含めて、早期の対応を望む。

< 綾川ダム群 >

- 坂出市：平成 16 年の浸水被害の経験からも治水対策の必要性を感じており、長柄ダムの再開発により洪水調節機能の増強をお願いしたい。上流での治水対策であるダムは必要である。
- 丸亀市：災害リスクを低減するため、ダム事業による治水対策を早急に実施していただきたい。
- 綾川町：現在、綾川町内には流下能力が不足する区間が多く存在しており、ダム地点で今以上の洪水調節が必要である。ダム群連携は、既存の社会資本の活用といった点で大変意義のある事業であると考えている。

その他質問事項

- 利水の評価軸にある「目標」の考え方
- 代替案の検討の仕方
- 河川整備計画との関係
- 新規利水参画者への必要量の確認状況
- 流水の正常な機能の維持のための流量の考え方
- 今後のタイムスケジュール